

植物多様性センターの「カンガレイの一年」

低茎草地エリアにビオトープを設置してから約1年経ちました。カヤツリグサ科のカンガレイは夏頃には大株になり、ビオトープの主演といわんばかりの存在感を示してくれました。目立った花を咲かせるわけではないのですが、茎が三角形であったり、花が雌性先熟であったりと面白味のある植物です。自生している池沼や湿地といった水辺の環境は、人工的な改変や環境の変化を受けやすく、その影響を受け、東京都では絶滅危惧Ⅱ類に指定されています。



植栽当初:新葉が何本か出始めている程度でまだ小さい



高さ1m程にもなり、後ろの植栽も見えない程成長した



花:数個から20個程の小穂をつける



小穂が枯れると鱗片の隙間から果実が出てくる